

## 令和5年度 第7回 政策調整会議 会議録③

- 
- ◆開催日時：令和5年11月21日（火） 10：13～10：50
  - ◆開催場所：第1委員会室
  - ◆出席委員：堤副市長、波積副市長、大下教育長、西川総合政策部長、残総務部長、寺本財務部長、牟田生涯学習部長
  - ◆説明者：田中郷土文化課長、山岡文化財担当長
- 

### ◆審議事項

「岸和田城庭園（八陣の庭）整備計画」について・・・・・・・・生涯学習部郷土文化課⇒承認

---

### ◆審議概要

◎付議依頼書等に基づき説明

◎説明後、質疑応答

〈堤副市長〉新しい視点で整理された非常に重要な整備計画であり、国や大阪府からの補助金にも関わるのでぜひ推進をお願いしたい。城と一体となった“現代アートの芸術作品”という位置づけを新しく打ち出すことで、現在策定している「文化創造ビジョン・岸和田」がめざす“文化・芸術のまち 岸和田”のモデル的な中核施設になり、「新・岸和田」の柱になると思っている。コシノ3姉妹や塩田千春さん、逢香さんといった芸術家の芸術作品もあるが、岸和田城や八陣の庭は常設のため、わかりやすく誰もがいつでも見られる芸術作品である。関空から一番近い城なので、竹あかりやウエディングだけでなく、様々なイベントで国内外の人に見てもらい、歴史・伝統の象徴としてのだんじりだけではなく、“文化・芸術のまち”としての岸和田を打ち出してもらいたい。11月26日（日）にも、八陣の庭で大阪府主催の光のアートやトークイベントなどを開催予定である。“文化・芸術のまち 岸和田”のスタートになるイベントとして一過性のものでなく、著名な庭園作家である重森三玲の、現代アートを誇る岸和田というイメージを打ち出してもらいたい。

将来的には、岸和田城と八陣の庭を核として、以前から課題となっている城周辺の整備構想を検討してほしい。府や国、世界的にも認められるような材料があり、それを中心とした城周辺の整備をすることで、核が定まってわかりやすいと思うのでぜひとも願います。

〈波積副市長〉城が城の形として残っていることが大事である一方で、知られていないというのが現状。先週末、埼玉に行ったときに聞くと、だんじりは有名だが城の存在は知られていない。関空から一番近い城であるにも関わらず、どうしてもだんじり一本になっている。岸和田市内のあらゆる資源を活用し観光客を呼び込むためにも、城が残っていることは大事。また同時に、城や古墳などに木は群生しないものなので、本来の理想の城の形を維持する考えを打ち出すことは重要。岸和田市の観光価値を上げるため、計画に基づきしっかり対応し、一過性でなく継続的、恒常的に国内外の観光客にアピー

ルできるようにしてもらいたい。

〈教 育 長〉心技館と岸和田城庭園整備計画との関わり、特に、名勝の公開活用のための諸要素である「本質的価値を構成する枢要な」あるいは「連続する」あるいは「副次的な価値を構成する」にあたるのか、ということスポーツ振興課と意思疎通し、心技館は対象外であることを示すこと。

樹木の伐採については、木に対する思いが強い方がいる一方、岸和田城の景観を守るためには必要以上に繁茂している木については剪定し、場合によっては除去する必要がある。そこがしっかりと伝わるよう十分な説明をしていくこと。

〈財 務 部 長〉市として城の PR はよく行っているが、八陣の庭は「知る人ぞ知る」という印象があり、八陣の庭の PR の視点が非常に薄いように感じる。郷土文化課として強く発信していくことが重要だが、城に関わる各課において、城だけでなく庭も一体的に PR するよう足並みを揃え発信できるような仕掛けをされたい。

〈総 務 部 長〉コンセプトとして重森三玲の世界観に戻すとのことだが、市民は今ある木に馴染んでいるので、工事現場においてもコンセプトを PR するなど市民の理解を得られるよう十分留意すること。

〈総合政策部長〉「名勝」という言葉にはピンとこない方が多いので、私は説明のときは「景色・景観の重要文化財」という説明を使っている。今生えている木は重要文化財に指定されたものとは関係ないという理解で良いか。

〈文化財担当長〉そもそも枯山水庭園であるため、樹木はないほうが良いというのが基本。指定の中で当時ある樹木は含んではいたが、樹木はどんどん成長し、現状変更していくものなので、47年の重森が評価した形に戻していく。樹木をどうするかは、文化庁、大阪府の立会いのもと定めているので問題ない。

〈総合政策部長〉以前、城郭管理者協議会の研修に参加した際、広島城の周りに木が茂り、天守閣が見えなくなったことで、観光客がただの森だと思い城を見ずに帰ってしまったという事例を聞いた。岸和田城は「一度は行きたい！名城絶景」（ぴあMOOK）にも選ばれているので、そうならないよう、外側からでも天守閣が見えて城だとわかり、見に来ていただけるような城にしていきたい。城の魅力を発信できるよう工夫し、本計画を進めてもらいたい。

白砂は、上から見ると昔からの部分と追加した部分で色が違うように見える。さらに追加する際には、綺麗にブレンドし、見栄えが良くなるよう工夫してほしい。また、砂を入れるときには、単にこちらで工事を行うのではなく、市民の手を借りて入れるとか、砂紋引き体験などを行うことで郷土愛の醸成につながると思うので、そういった工夫も検討されたい。

〈堤 副 市 長〉樹木については、景観の観点に加え安全性の面からも、このままでは城の城壁が崩れることにつながるため、そういった理由もしっかり説明すること。既に根が張って石垣に損傷を及ぼしたり、塀に亀裂が入ったりしている。

古墳でも神戸市の五色塚古墳のように樹木を除去し、本来の姿に戻しているところもある。森ではなく、昔の姿を見ると感激すると思う。難しいと思うが、説明の仕方をしっかり考えてもらいたい。

〈総合政策部長〉本案件について、原案のとおり政策決定会議に諮ることとしてよいか。

【異議なし】

⇒本件、原案のとおり承認し、政策決定会議に付議する。

令和5年 11 月 14 日

## 政策調整会議付議依頼書

依頼者名 生涯学習部長

下記事項について、効果的かつ効率的な市政運営実施のための会議の設置に関する規程第 14 条の規定に基づき、下記のとおり付議を依頼します。

### 記

付議事項名	「岸和田城庭園(八陣の庭)整備計画」について
付議の目的 (ポイントを絞り込んで、簡潔に記載すること。)	平成 30 年度に策定した「岸和田城庭園(八陣の庭)保存活用計画」に基づき、岸和田城庭園(八陣の庭)が有する価値を明確にし、岸和田城と共に後世へ継承するための整備、活用の基本的な方針を示すため整備計画を策定した。
説明者	郷土文化課長 田中 文化財担当長 山岡
付議事項の概要	様式別紙に記載(必ず別紙様式をご提出ください。)

別紙

付議会議	令和5年度 第7回会議
付議事項	「岸和田城庭園(八陣の庭)整備計画」について

★取組の目的

対象	行政 市民 施設利用者
どのような状態を目指す	名勝の価値を後世へ継承できている。 歴史、文化を後世へ伝え、郷土愛への愛着をはぐくむ。

★総合計画上の位置付け

1070201	基本目標	岸和田の次世代を育むまち
↑ここにコードを入力 (コードは「将来ビジョン・岸和田(体系)」シートを参照)	個別目標	郷土の歴史や文化が引き継がれている
	個別目標の方向性	② 岸和田の歴史や文化の保存・活用を進める
	行政の役割	岸和田の歴史や文化財を保存・活用する

★現状と課題

八陣の庭は作庭後70年が経過し、構成要素が経年劣化していること、八陣の庭の周囲の植栽が成長し、八陣の庭が有する価値を損ねていること等から、早急に全体的な整備等を検討する必要性が生じてきた。また、八陣の庭の整備にあたっては、八陣の庭が所在する府史跡岸和田城跡内の諸建築物や千亀利公園と調和のとれた整備を検討していく必要があり、庁内関係部課との連携を再検討する必要があることから、先に策定した保存活用計画に続き、八陣の庭をとりまく諸環境の整備を総合的に検討する「岸和田城庭園(八陣の庭)整備計画」を今回、策定するものである。

(単位:千円)

実施中の取組及び予定する事項	決算(見込額)		予算額	見込額					
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
文化財保護事業 (整備計画作成業務委託)	3,256	4,028							
文化財保護事業 (整備計画刊行)			449						
文化財保護事業 (白砂の追加・上段)								300	
財源内訳	国費	1,628	2,014						
	府費								
	起債								
	一般財源	1,628	2,014	449				300	
	その他								
事業費	計			R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
			300	0	0	0	0	300	

★当該事項に関連する人員増の必要性\*

人員増の必要性		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
有	無					

★取組の効果を表す指標

指標名	単位	R3年度	R4年度	R5年度	目標値				
					R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
①									
②									

※事業費及び人員を確約するものではない。